

あおもり藍で製品を

青森一高養生 染料用の苗植え付け

青森市の青森第一高等養護学校（菊地康弘校長）の生徒たちが本年度、自ら栽培した「あおもり藍」で染めた製品の開発に取り組み。11日、1〜3年生の8人が、染料に用いるあおもり藍の苗の植え付け作業を同校敷地内で行った。

製品開発は、本県で来年開かれる「全国産業教育フェア」に向けた活動の一環。あおもり藍の産業化に取り組む同市の「あおもり藍産業協同組合」と、生産する地元企業「藍農産」と連携し、あおもり藍の機能性や藍染め技術などを調査しながら進める。苗は、藍農産から無償提供された。

青森



花壇にあおもり藍の苗を植える生徒ら

生徒たちは数百本の苗を1時間ほどかけ、一本一本手作業で花壇に植え付けた。3年の山口生織さん（17）は「真つすぐ立つように植えるのが難しかった。水やりや草取りなどをしてしっかり育てていきたい」と話した。

この画像は当該ページに限って
東奥日報社が利用を許諾したものです。